

## 第3回天理市総合教育会議

日 時 平成27年7月21日（火）午後3時30分

場 所 天理市役所4階特別会議室

### 次 第

○開会

○市長挨拶

○案件

1. 教育大綱について
2. その他について

○閉会

第 3 回天理市総合教育会議  
配 布 資 料 一 覧

資 料 名	資料頁
席次表	3
第 2 回議事録（概要）	4
総合教育会議委員からの意見	22
教育大綱 関係施策一覧	26

# 天理市総合教育会議 席次表

(東)

並河市長

森継教育長

田中委員

副市長(藤井)

事務局(山中)

教委(竹株)

教委(冬木)

学校教育(吉岡)

学校教育(新居崎)

総合政策(上田)

中嶋委員

名倉委員

前川委員

事務局(木村)

事務局(上村)

事務局(葛本)

教委総務(西岡)

教委総務(土田)

児童福祉(吉本)

出入口

出入口

(西)

【特別会議室】

## 第 2 回天理市総合教育会議 議事録（概要）

開催日時	平成 27 年 7 月 6 日（月） 午後 3 時 30 分～午後 4 時 30 分
開催場所	天理市役所 4 階 特別会議室
出席者	並河市長、森継教育長、田中教育委員会委員、中嶋同委員、 名倉同委員、前川同委員
欠席者	なし
事務局	山中公室長、木村総合政策課企画室担当課長、上村企画室長 葛本主査
事務局側	藤井副市長、竹株教育委員会事務局長、冬木同局次長、 吉岡学校教育課長、新居崎同課指導主事、 西岡教育総務課課長補佐、土田同課係長、 上田総合政策課課長補佐（総合戦略担当）

### ◇会議次第

- 開会
- 市長挨拶
- 案件
  - 1. 教育大綱について
  - 2. その他について

### ◇資料

- 1. 第 2 回総合教育会議席次表
- 2. 第 1 回天理総合教育会議議事録（概要）
- 3. 第 2 期教育振興基本計画、天理市教育方針、天理市教育大綱の柱の比較
- 4. 天理市教育大綱（原案）
- 5. 教育大綱関係施策一覧表

### ◇司会あいさつ

<事務局 木村>

### ◇市長あいさつ

<並河市長>

- 前回の協議、中身を踏まえながら、私どものほうで一旦、原案を作成させていただいた。今日は委員の皆さまから、大きな流れの中でこんな要素が必要では、こんな

取組みもやっているのもっと広げていくべきではないか、といったご指摘をいただく中で整理していきたい。

- 目指していきたいのは、今回の大綱策定をもって、市民の皆さんに、天理市でどういった教育が行われようとしているのかをわかっていただけるきっかけしたい。天理で育つことの豊かさということが市民の皆さんに共有されないといけない。
- 大綱については、その内容が、あまりに漠然としていると、せつかくみなさんと議論して作った中身が読み飛ばされて終わっては、意味がない。また、あまりにも細かく具体的すぎても、漠然としすぎてもほとんど参考にならない。そのあたりのバランスをご議論いただきながら、ご意見を頂きたい。

#### ■案件 1. 総合教育会議について

<事務局 上村>

- 構成として、最初に「教育の基本理念」があり、それを4つの柱が支えているというイメージを表した。青丸の中の基本理念には、キャッチフレーズ的な言葉が入ってくるが、別途ご意見をお願いしたい。その下に「大綱の位置づけ」を可能な限り文章を用いず、図によってその関係性を示すよう配慮した。次の見開きページは、大綱の4つの柱の下にそれぞれの施策が入ってくるような形にした。最後のページにこの大綱の策定年度にあたって、何に重点をおくかというところをまとめた。最後に策定の成り立ちを配置した。この部分は、堅い感じの文言が並ぶため、目にした人の抵抗感の軽減を考え、文頭ではなく末尾に配置した。
- 内容についての説明として、大綱は、市全体の教育の方向性、ベクトルを示すものとして、学校教育だけではなく、各方面を網羅的に作成した。大きな柱だてを考え、その柱にしたがって、天理市の教育の大筋を示そうとしているもの。柱については、国の第2期教育振興計画及び天理市教育方針を参酌して設定した。読んだときの統一感を出すため「～づくり」という形でまとめた。
- 「重点施策」については、総合戦略の考え方や施策を連動させながら、平成31年度までに特に何に力を入れて取り組むかということ、重点施策として明らかにしていきたい。今回は、あくまでもイメージを持っていただくための例。また、「天理市総合戦略」の考え方を取り入れることを最初のページの「大綱の位置づけ」で明記した。重点施策の部分で総合戦略の視点をからめながら、「天理ならでは」というカラーをしっかりと出していきたい。
- 資料10ページから19ページについては、4本の柱の下にある項目について、現在行われている施策と、今後の方向性まとめさせていただきました。これをどのような形で本論に組み込んでいくのかについて、ご議論、ご意見いただきたい。

<並河市長>

今の事務局の説明に対し、ご意見、ご質問をお願いしたい。

<中嶋委員>

- 教育大綱は、この裏表だけで表すのか。
- 表紙にいろいろ入りすぎていてわかりにくい。キャッチフレーズを真ん中に配置して4つの柱がつながっているのであれば、わかりやすい。
- 表紙は看板なので見やすい形でインパクトのあるものを。
- 4つの柱ももっとわかりやすいものがある。
- 「人権文化の高揚と世界で活躍するグローバルな人材づくり」ではなく、現状課題である「自己肯定感の高い子ども」「国際社会に通じる」などわかりやすい言葉で。

<並河市長>

- 「自己肯定感の高い」というところは、非常に重要。どの柱とつながるのかは整理が必要。
- グローバルをあえて一つの柱とするのであれば、国際性が豊かな町であるということとを特色として出していこうとするのであれば、それも一つ。
- 見出しとして「自己肯定感」は固いので、「自己に誇りを持つ」ということか。

<中嶋委員>

- 「自分に自信を持った」か。
- 「市民との協働」という視点を大きく取り入れていただく機会かと思います。特に「2、子育て環境の整備とコミュニティづくり」が当てはまる。その中の「地域の絆や交流の拠点づくり」や「子育て支援の推進」というのは、必ずしも行政だけではなくて、保護者や地域の方の力もある。

<並河市長>

- 積極的な主体としての市民という形で、子どもも育てるし、地域も育てていくというようなニュアンス。

<中嶋委員>

- 今、されていることや今後やっていこうということにつながるような書き方を。

<並河市長>

- 作り手としての主体性を持たせるというご指摘かと。

<中嶋委員>

- 主体性を持つことと、受け手側の市民の方々に、共感し、参画意識を高く持ってもらえるようなものを。

<並河市長>

○今後の施策の中身と方向性に活かされているかという視点で、しっかりやりたい。

<田中委員>

○「教育大綱 関係施策一覧」を基にひとまず中身を整理していく必要があるのでは。もう少し施策の話をしないと、上の部分のまとめ方も整理がつかないのでは。

<並河市長>

○上位概念のところの言葉をどうするかは後でもいいかと。今、要素として入ってないといけなことを出していきたい。例えば、ある目的のために今までやってきた施策について、別の要素も加える必要があれば出していきたい。

## 1. 自分の力で未来を拓いていく力を持った人づくり

### ①就学前教育の充実

<田中委員>

○「就学前教育の充実」では、保育所、幼稚園が教育として一体化していかなければならないという話が出てきたらいい。

○例えば「自己肯定感」については、『義務教育の充実』の中で、論じるのがいいんじゃないか」というように話を進めてもらおうと、まとめやすいのでは。

<森継教育長>

○「今、取り組んでいることをアピールして、その次にこれからの方向性を示す」という方向か、それとも「今、取り組んでいることは皆さんにわかっていたいでいるので、これからやっていくことに重点を置く」という方向なのか。

<並河市長>

○全てが新規案件というのは無理。ただ、これまでの取組みについて、外見的に同じであっても、目的意識とやり方のところで、もう少し掘り下げていかなければいけないものもある。既存の案件をさらに高める部分と、全く着手できていないところの新しい要素が入ってくる部分とがある。

<森継教育長>

○それは、これからやっていこうという部分と捉えていいか。

<並河市長>

○全体としては、これからやっていこうということ。今やっている既存事業も含めて、

これからこんなふうやっていこうということ。

<森継教育長>

○全てを載せきれなくても、優先的にやっていこうとすることをわかっていただくと。

<並河市長>

○例えば「読み聞かせ教室」の目的をもう一度はっきりさせたいうえで、各学校の足並みを揃えながら、これからの部分につながるようなものを出していくのが大事。

<中嶋委員>

○今までやっていないことをやろうというのが大綱ではなくて、力を入れていくことの中には、既存の事業にさらに力を入れていくと。

<並河市長>

○全く入っていないので、新規の事業として入れていかなければならないものも当然ある。

<名倉委員>

○今までやっていることと、新しくやっていくことと、全てを入れ、それをいかにわかりやすくまとめるか。

<並河市長>

○「就学前の充実」では、田中委員から「幼保の連携」という要素をもっと出すべきという意見が出たが、「連携」といっても要素がたくさんあるので、どういう意味での幼保の連携にするかは議論が必要。

<田中委員>

○保育方針と教育方針をまとめて「システムも時間配分も違うが、内容は統一している」という方針を出すべき。

<並河市長>

○保育の中に幼児教育の要素を入れていくことによって、中身も、預る時間も違うけれども、ある程度の統一性、教育性を持たせるべきというご意見かと。

○公立の保育所で幼児教育的要素を重視した形で、幼稚園か保育所かによって違うということではないという状況を作っていこうというご指摘かと。



<名倉委員>

○やまだこども園でされていることを参考にしてほしい。

<並河市長>

○やまだこども園の場合は、数の上で両方とも維持できないというやむを得ない状況のためにそうなったところがある。十分に人数がいるところからは「なんで一緒にならないといけないのか」「行政の予算削減のために、園を潰すつもりか」などの意見が出かねない。そのため、保育所の中でも、小・中の「学習規律」みたいなものと同じような考え方があれば。そうすると、将来的にハードを合わせることになっても、両方の職員も対応がしやすい。

<田中委員>

○保育指針があるが、ほとんど網羅されている。

<並河市長>

○指針のところから中身の部分も、極力連携をとっていこうと思う。「幼稚園へ行った子も保育所へ行った子も天理にいた子は～」という状況にもっていきたい。

<田中委員>

○もっていけると思う。先生方の意識の問題かと。

<並河市長>

○今はうまくまとまらないが、これは重要な要素。

<中嶋委員>

○幼稚園や保育所に行っている子どもが小学校に上がるときに天理市の決まりごととしてあると、保護者の安心にもつながる。

<田中委員>

○「就学前教育の充実」の中に「キッズサッカーやマラソン、ほか体力の向上事業」とあるが、記載が足りない。いわゆる「体力」の部分に何にかが欠けていると感じる。

<並河市長>

○田中委員の視点からみると、体力を向上させるという意味での取組みが足りていないと。幼稚園や保育所のところで重視すべきということか。

<田中委員>

○そういうこと。

<森継教育長>

○小学校でも何をするのか考えないと。

<並河市長>

- 小学校の体育の先生が、一年生が入ってきたときに「これができないのか」と戸惑いを感じられているのか。幼稚園、保育所の段階から、そういう意見を反映しながらプログラムを組んでいくような形にするのは非常にいい。
- どうして「なわとび」「マラソン」なのか、そこの意味付けをしっかりとすることが必要。単純に体力向上という要素だけではなく、構成していくべき。
- 大綱をつくるにあたって、現場サイドと議論することがこの大綱の目的。紙の上で作って終わりではなく、書き込んでいくときに現場サイドと対話することによって、認識を統一していくためにこれをつくる作業がある。

<名倉委員>

○「異年齢交流（3歳児・4歳児）をしっかりやっています」という文言を入れたらいい。

<並河市長>

○今の実態としてはどうか。

<教育委員会事務局 吉岡>

○園の行事の中で、学年をとっばらって、講座ごとに遊んでみたりとか、異年齢合同で活動してみたりしている。

<並河市長>

- どういう方向づけでやるかというのを書き込めたらいい。
- 兄弟がいない子どもも多い中で、上の子が小さい子を見ていけるようなメカニズムを作っていくことが大事。

## ②義務教育の充実

<田中委員>

○今回、学力学習状況調査があつて、これをもとに何かビジョンを出していただきたい。例えば「書く力がない」という問題を提起していただいて、自己肯定感といっ

たところに結び付けていくような教育システムを構築していただきたい。

<並河市長>

○それは必須。どこに書かれているのか。

<森継委員長>

○書いてあるのは、今やっていることだけ。基本的な生活習慣をつけるということは、各学校の取り組みとしてやっている。こういう取り組みはもっと市をあげてやっているかと考えている。

<並河市長>

○一番むずかしいのは、学校から帰った後の親の意識を変えていくということではないか。

<森継委員長>

○親も一緒に勉強しようと、家庭も教育してくれということで取り組んでいる。

<並河市長>

○PTAとか愛護会とも連携して認識を高めていくということはどうか。  
○生活習慣について発信は、学校からか、先生ごとか。  
○先生方の取り組みによって格差が出てくると思う。市として継続的に親御さんに見ていただく形をとることで、生活習慣と学習の関係がわかるようなものを作っていくということ。

<並河市長>

○「書く力、発表する力をつける」ということの現状は。

<教育委員会事務局 吉岡>

○各学校によって違うが、日頃の日記指導や、読んだ本について一言感想を書いてみんなで発表し合うなど、日々の学習の中では取り組まれているが、全体とした取り組みにはなっていない。

<並河市長>

○それは全体の取り組みとしてぜひ打ち出していきたい。「書く力、発表する力の強化を頑張っていく」と項目としてあげていただきたい。どんな形の取り組みとしてやっていくのか、一からオリジナルで考える必要はないが、他でいい取り組みをしているところがあれば参考にしていきたい。

<中島委員>

- 例えば「授業を受ける 10 のきまり」のような、学校でも、家でもやってもらうことを作れば、具体的になるのでは。
- 書く姿勢、話す姿勢、聞く姿勢について、教育的にわかりやすいキャッチを作ってそれに規律を盛り込み、別途つくっていただくような形がいい。

<並河市長>

- 「書く力」だけ分離しても仕方がないので、その流れのところを整理する必要がある。
- インプットした情報を自分の中で正確に理解するという部分と、それを受けて自分自身の言葉なりでアウトプットする部分と、一連の作業にならないといけない。その中のアウトプットの部分が非常に弱いというのがテストで指摘されているところなので、そこをしっかりとやっていく必要があるという事。それを表現する何かいいようなフレーズがあればいいけれども。

<中嶋委員>

- タイトルにふることで飲み込みやすくなるか。
- 聞くのと話すのはできるが、書くのができないんだとか、得意、不得意があると思う。

<並河市長>

- 英語だったら、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングというそれぞれの要素があるので、この場合もそういう分析をしていきたいと思います、そういうことでは。

<中嶋委員>

- その通り。

<森継教育長>

- 国語では、その観点で評価している。

<並河市長>

- 私はライティングとスピーキングの部分が弱いという認識だが、どうか。

<事務局側 吉岡>

- 「書く」というのは小学校の授業の中で「聞いて、書く」「考えて、書く」「読んで、書く」という二段階目の作業。二段階目までに至っていないところがある。そこが、

これからの課題ではないか。

<並河市長>

○この部分は、非常に大きな要素。どういう書きぶりにするのかということは、事務局で議論を。

<名倉委員>

○保護者にもわかるように、できるだけ具体的に書いていただきたい。  
○学校によって差があるというのは、絶対にあってはならない。ある程度の教育観を細かく具体的に載せると保護者としては安心する。

<並河市長>

○そのあたりを事を載せて大綱の意味がある。「書く力の重視」を「それぞれに頑張ってください」と、ただそれだけではバラバラになってくる。

<田中委員>

○いじめの問題、不登校の問題について、それらの原因は、多種多様に渡るが、しかし、最大公約数的に共通された内容があるのではないか。そのあたりを明確化し、その部分を克服する義務教育課程が必要なのではないか。

<並河市長>

○今「いじめ、問題行動等対策委員会の設置」と「アンケート実施」が記載されている。今、田中先生の要素はその委員会とかでは対応できているか。

<事務局側 吉岡>

○アンケートは年に2回実施している。その内容については、学校の中で精査して、それぞれ取り組んでいただいたことを報告してもらっている。

<並河市長>

○いじめになってしまう人間関係に至らないためにどのようにしたらいいのかとか、あるいは不登校という行動に至らないためにどうしたらいいのかというところを「それぞれに頑張ってください」ということではなく、もう少し掘り下げた視点や体制がいるのではないかという田中委員からの指摘。

<森継教育長>

○掘り下げていけば、「こうしたら相手はこう思う」とかいう「想像力」の問題かと。

<並河市長>

○どうすればそういう構造にならないかというところを先進地等で取り組んでいるところがあれば、それを取り入れていくというところが欲しい。

<中嶋委員>

○いじめの問題は、一概には言えないが、例えば「自分だけではなく、相手の立場にたつてものを考える」というようにすべてにあてはまる言葉に置き換えることはできるのではないか。

<並河市長>

○項目としては、人間関係的な部分と、早期に状況を知覚、把握するという部分と、ケアの必要性の部分など、いくつかの部分に分かれる。それによって、今やろうとしていることがちゃんとそれに対応できているのかという視点でここの部分は整理をしていけばいい。

○いじめと不登校と、あるいはネグレクト、DVという部分も関連してくるので、その視点に立ってどうかというのにも必要。

○今、うちの体制としてはどうなっているのか。「いじめ・問題行動等対策委員会」はどこにあるのか。誰が相談に行くのか。

<事務局側 吉岡>

教育委員会にあるが、相談機関ではなく重大事項を話し合う場。

<並河市長>

○では、先ほどのアンケートの先につながってくるものが必要だということでは。カウンセリングのところは若干、書かれているが、ばらけているので整理を。

<名倉委員>

○道徳教育に力を入れていくということも必要。「道徳教育」という文言を入れるのはどうか。

<並河市長>

○現在のはどうなっているのか。総合学習の時間で扱っているのか。テキスト等の状況は。

<事務局側 吉岡>

○副読本として、県作成の「なかまとともに」がある。

<名倉委員>

○このこともちょっと触れておいた方がいいと思うのだが。

<並河市長>

○道徳教育を「副読本を読め」というだけではどうかと思う。できれば、それが地域のみなさんと何かを一緒にしたり、多世代でやるような実際の活動のところで補強されているというところにあると、天理の豊かさということで表していける。

### ③特別支援教育の充実

<中嶋委員>

○「親御さんがなかなか認めにくい」とか「周りの方の理解が云々」ということを聞いたことがある。

<並河市長>

○今でも、大事なことだと分かっているながら相談に行かず、放置してしまう親御さんもいるということなのか。相談に行くということにたどりつかないという状況があるのか。

<森継教育長>

学校側、先生側から接触を図っているが、受け付けない方もおられる。

<並河市長>

○そういう状況をきちんとケアすることが、クラス全体の雰囲気を作っていく上でも、他のお子さんとの関係においても、きっと大事であろうと思うが、受け入れられない親御さんに対してどう対応するかというのは難しいところ。

<森継教育長>

○そういうお子さんの対応として、教員ひとりがかかりきりになってしまう。サポートする支援員が必要。

<並河市長>

○教室の中で先生がかかりきりになっている状況も大いにあるということか。

<田中委員>

○母親は相談をしたいが、世間体の問題でそこに行けない。だから、行けるような環境をどうするんだという問題がひとつあると思う。あらゆる状況を把握し、行動で

きる専門家がいたらいいと思う。

<並河市長>

○先生まかせの状況だけではなくて、常駐ではないにせよ、専門的な動ける人の配置や対策についての現状はどうか。総合センターがその機能を果たしているのか。

<事務局側 吉岡>

○はい。

<並河市長>

○では、その部分を書き込みながら、今後、不十分なところを「市としてこういう思いでこういうところをやっていきます」という形で今の部分の整理を。

<中嶋委員>

○実際、ここに書くとなったら、人の問題になってくると思う。

<前川委員>

○障害を持った子どもの周りにはいる子ども達の理解ということも、ひとつには教育の充実につながっていくのと思う。必ずこの場所に書かれていなければいけないということはないが。

<並河市長>

○重要なこと。「何やってんねん、お前は」みたいな感じで扱われるのと、周りが理解しているという中でその子どもが安心して過ごせるのというのでは違う。

○交流遠足とか宿泊合宿は「社会適応能力の向上を図るため」ということで、特別支援教育の充実に入るのか。みんなが泊まりに行くようなものとして今でも曽爾高原に行っているのか。

<事務局側 吉岡>

○5年生が野外合宿で吐山に行っています。

<並河市長>

○私がそれを聞く理由は、地方創生の事と結び付けたい、できるだけ市内の交流というのを促進したいというのがあるから。平たく言うと曽爾高原に行くまでもなく我々には福住があると。お金も地元にと落としたいし、地元の山間と盆地区の交流というような事業を創生の玉にしたいと考えている。



<中嶋委員>

○曾爾高原に行かなくたって、山田公民館にキャンプ張って周りに泊まれるのはいいかも。

<並河市長>

○今後、高原の協議会の方でも諮っていききたい。これはどちらかという創生の山間対策の部分の話として。

<名倉委員>

○これまでは、山田にキャンプに行っていた。

<並河市長>

○それは、福住とか山田という地域として受け入れるのではなくて、ただキャンプをする場所が山田だったという話。私が今申し上げているのは、地域との交流促進とかあるいは山間部の過疎化対策という地方創生の部分で、教育委員会のお力添えをいただきたいということ。

○あと、もう一つやりたいことは福住中学校を特区化すること。福住中学校を希望する子どもは、市内のどこからでも行けるといようにしたい。先日の高原の街づくり協議会の中で、「ぜひやってほしい」と福住校区から熱望された。問題としては、交通手段の問題と、本当に行きたいかということと、福住の方はそれを受け入れられる態勢かということがあるが、創生の中で極めて重要な要素だと思っている。天理市は町の部分と高原・山間の部分、両方ひとつの市で持っていますので、その利点を生かすということをやりたい。天理市独自の高原対策や、平野部の子どもへの取り組みのつながりとして、これは 28 年度ではなくて 29 年度を目指してやっていきたい。

<森継教育長>

○特区というのは校区が自由化になるということか。

<並河市長>

○福住に限って。

<森継教育長>

○たくさん希望者があるかどうかは、調査をしなければならない。

<並河市長>

○できれば、本年度なりに次に 6 年生になる子どもの保護者に聞いてみないといけな

い。多すぎても受け入れられないので、その場合の調整をどうするかというところも考えないといけない。福住の小中学校は、このままいけば、廃校になる。福住は学校がなくなったら、現役世代が住めないところになってしまう。町自体が住めない町になってしまう。大変なことは理解するが、これから先の、もし、廃校になってしまった時の大変さを考えれば、今やらないと。

<森継教育長>

○継続的にできるのかどうか。

<並河市長>

○実施方法については、また後日に。

#### ④青少年の健全育成

<田中委員>

○青少年健全育成については、天理市の子ども達をどうしたいのか、どんな子ども像を持つかによる。子ども達を作るために、系統のようなものを明確にしないと、保・幼・小・中、子育てのつながりが見えてこないなので、そんなものを記載すれば。

<並河市長>

○今、青少年健全育成をやるにあたって、そういう「像」みたいなものはあるのか。こうあるべきとか、こうあってほしいなというようなものは。

<田中委員>

○「相手の立場にたって考える」ということであれば、そういう子どもを育てるのに、このことをしよう、あのことをしようということを健全育成の中で積み上げていくことが大事では。

<並河市長>

○教育長、どうか。

<森継教育長>

○挨拶では。

<並河市長>

○挨拶は形骸化しているような気がする。

<中嶋委員>

- 「あいさつしましょう」だけでは響かない。でも「自分からしましょう」と言うかどうか。そう言うと自分からあいさつしようという積極性が出てくるのでは。
- 挨拶は当たり前のことで、それを繰り返していれば形骸化して当然。でも、実際に本当に心をこめて、相手と本当に親密になれるような仕方をしているかというところ、どうだろうか。職場においても、どこでも当てはまることでは。

<並河市長>

- 天理警察の少年課とやっている取り組みはぜひ載せていただきたい。
- 農との連携も載せていただきたい。あれが広がらないのは、自分の畑を提供してくれるだけではなくて、ずっと一緒に育ててくれる人を確保するのが難しいから。地方創生の中で、放棄地対策を絡めていただければ、予算をつけて、謝礼を払ってもいい。せっかく居場所づくりのノウハウをやっているのを、広げていただきたい。農業を通じて青少年の居場所づくりというのは、町中ではできない事。さっきの特別支援の部分と絡めるかどうかはこだわらない。

<森継教育長>

- 一部の者だったら可能だが、学校挙げてというのは難しいのでは。

<並河市長>

- それは難しい。健全育成の方か、特別支援の方か、ある程度人数を絞った形での実施だと思う。
- 教育総合センターでやっていることを、各校区で頑張ってもらいたい。

<中嶋委員>

- 学校関係者や行政でない地域の方や保護者の方に視点をあてるような施策の書き方をすればどうか。「皆さんの協力もいりますよ」ということも書いてもいい。

⑤「学びの環境整備」

<並河市長>

- 読書意識というのは、唐突に「学びの環境整備」に書かれている。これは、さっきの義務教育のところではないかと。

<中嶋委員>

- 図書館でやっていることを学校に広めていきたいと思いますという事では。

<森継教育長>

○この「どくしょ手帳」というのは、小学校に全部配ってある。

<名倉委員>

○「学びの環境整備」というのはハード面もソフト面も両方か。意味合い的にどちらでもいいのでは。

<並河市長>

○「図書館の充実」的な話なので、書きぶりは相談を。

<名倉委員>

○環境整備に、教育委員会の予算が結構使われているので、老朽化した施設の対応など、もう少し文章を書いた方が。

<並河市長>

○現在、ファシリティの方を実際に早稲田さんと一緒にやっているので、もう少し「やってるよ」というところが欲しい。

○「ICT環境の整備とタブレット導入」とざっくりただ書いてありますが、これは「何のために」と「どういうふうに」というところがないと、意味がない。

○「校庭の芝生化」も、これをどう位置付けるかということ、単なる遊び場ということになるのか、放課後の過ごし方ということか、地域との関係ということともつながる。どこで論じるのかは検討が必要。

<森継教育長>

○地域との連携だという気はするが。

<並河市長>

○このハード整備のところでは、「何を指すのか」というところの書きぶりが薄い。

○何のためにやるのかというところ、例えば先ほどの地域連携、地域への予算を減らすために地域の人を巻き込むという観点よりも地域の人に来てもらうための要素なのか、体力をつけるという目的で「幼児期に裸足で遊ぶような場所を整備する」という位置づけでこれをやろうとするのかで変わってくるので、ここの目的のところを、「校庭の芝生化」と「ICT」のところはきちんと議論しなければいけない。

## ■案件 2. その他について

～（日程調整 省略）～

◇閉会

<事務局 木村>

～省略～

**【午後 5 時 00 分閉会】**

## 【総合教育会議委員からの意見概要】

### 1. 自分の力で未来を拓いていく力を持った人づくり

#### ①就学前教育の充実

- 保育所、幼稚園が教育として一体化していくという方向性を出す。
- 「幼保の連携」という要素を出す。どういう意味での「連携」とするかは議論を。
- 例えば「読み聞かせ教室」であれば、その目的をはっきりさせたいうえで、各校の足並みをそろえながら、これからにつながる部分を記載。
- 保育の中に幼児教育の要素を入れ、ある程度の統一性、教育性を持たせる。
- 公立の保育所で幼児教育的要素を重視し、幼稚園か保育所かによって違うということのない状況を作る。
- 保育所の中でも「学習規律」的なものがあれば。
- 「体力向上」の部分の記載が足りない。なぜ「なわとび」「マラソン」なのかの意味づけをしっかりとすることが必要。
- 新小学校1年生を指導する体育の教員からの意見を反映したプログラムに沿って、幼稚園、保育所で取り組むような形にするのはいい。
- 「異年齢交流をやっている」という文言を入れる。どういう方向付けでやるのかということも書く。
- 上の子が下の子を見ていけるようなメカニズムを作っていくことが大事。

#### ②義務教育の充実

- 学力学習状況調査の結果に基づくビジョンを。例えば「書く力がない」という問題と自己肯定感といったところを結び付ける。
- 生活基本習慣についてPTAや愛護会と連携することはどうか。
- 市として継続的に保護者に見てもらおうような形を。
- 市全体として「書く力、発表する力の強化を図る」ということを打ち出す。大切な要素なので、どういう書きぶりにするかは事務局で議論を。
- 「それぞれで頑張ってください」では、学校間でばらつきが出る。学校によって差があるというのはあってはならない。
- いじめや不登校の問題には、最大公約数的な共通した内容があるのでは。そのあたりを明確にし、克服するような教育課程が必要では。
- どうすればいじめや不登校の構造にならないかというところを取り入れていくことが欲しい。
- いじめ、不登校については、人間関係的な部分と、早期発見、把握という部分と、ケアの必要性の部分とに分けて、今やろうとしていることがそれぞれに対応しているのか、整理を。
- いじめ、不登校、ネグレクト、DVという部分も関連。その視点に立ってどうかという検証も。
- アンケートの先につながるものが必要では。カウンセリングのところをばらけて

<p>いるので整理を。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「道徳教育」を入れる。</li> </ul>
<p><b>③特別支援教育の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●障害を持った子どもの周りにいる子ども達が、その障害を理解するということが大切な視点。</li> <li>●障害を持つ子どもの専門指導員について、総合センターでその機能を果たしている部分を書き込みながら、不十分なところを市としての見解、ビジョンとして整理する。</li> </ul>
<p><b>④青少年の健全育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども像を持ち、どんな子どもにしたいのか、系統のようなものを明確に。</li> <li>●天理警察の少年課とやっている取り組みを記載。</li> <li>●農業との連携による居場所づくりを記載。「特別支援」と絡めても。</li> </ul>
<p><b>⑤「学び」の環境整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●施設の対応について、もう少し書き込む。</li> <li>●「ICT環境の整備」と「タブレット導入」については、「何のために」「何を指すのか」「どういうふうに」というところがないと意味がない。</li> <li>●「校庭の芝生化」についても、これをどう位置付けるのかということ、単なる遊び場か、地域との連携か、放課後の過ごし方か、検討、議論が必要。</li> </ul>
<p><b>「柱」全体として</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「自己肯定感」というワードは重要。どこにつながるかは整理が必要。</li> <li>●創生としての盆地区と山間部の交流。</li> <li>●福住校区の特区分化。</li> </ul>

## 2. 子育て環境の整備とコミュニティづくり

### ①地域の絆や交流の拠点づくり

- 上から2つめの「妊娠期から子育て期～」の部分は特に重要な取組み。「天理で生まれてよかった」と思ってもらえるかどうかというところで極めて重要。妊娠期から乳児期にすこやかホールで作られた保護者同士の関係(子育てサークル的なもの)が、幼稚園に入る時期に差し掛かり校区に戻る時にその関係が切れてしまってはもったいない。せっかくできたつながりをそれぞれの校区でつなげていくコーディネーター等の体制が必要。
- 「子育てネットワークづくりの推進」という部分に「父親参加」の取組みをしていることなので、そのニュアンスを入れる。
- 「ネットワーク」と言われれば「参加したくない人も参加させられる」「しがらみ的なもの」などと重く受け止められるかもしれない。好きな時に集まれて好き

<p>な時に相談できて、その結果としてつながりができるというサロンの進め方が負担感の減少になるのでは。</p>
<p><b>②子育て支援の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「幼保一体化の推進」と前面に打ち出すと「すべてこども園になるのか」と勘違いされる。認定こども園も停滞している現状もある中で、将来的に一体にしていきたいという思いはあるかもしれないが、策定年度内に可能なのか。現実には即した書き方を。ただ、市長の考えとしてどうなのかは確認要。</li> <li>●「幼保一体化の推進」と前面に書いていながら、文末は「検討していく」となっている。整合性がとれていないのでは。「幼保一体化の推進」の意図を明確に。</li> <li>●「保育・学童保育の充実」では、それぞれが大きいテーマ。分離した方が良い。</li> </ul>
<p><b>「柱」全体として</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「市民との協働」という視点を入れる。</li> </ul>

<p><b>3. だれでも、どこでも学び合える環境づくり</b></p>
<p><b>①生涯学習の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●意見なし</li> </ul>
<p><b>②スポーツ・レクリエーションの充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●1番上の「スポーツ教室」云々のところに、小中学生向けの何かを入れていただくことは可能か。小中学生の体力が気になる。1の義務教育のところと整理してほしい。</li> <li>●福祉と連携した「予防のためのスポーツ教室」を強調してはどうか</li> <li>●2つ目の「総合型地域スポーツクラブの育成」は重要。</li> <li>●4つ目の○の内容を2つ目の○の内容に入れ込み、ひとつの文章にまとめる。</li> </ul>
<p><b>③環境教育の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「親子清掃活動」のところに幼稚園でやっている取組みもあげる。</li> <li>●リサイクルのところ、以前よく言われていた「もったいない」という言葉を入れるとわかりやすいのでは。</li> </ul>
<p><b>④市民文化活動の振興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●意見なし</li> <li>●「地域文化を通しての多世代交流」は重要なので、強調しては。</li> </ul>
<p><b>⑤文化財の保護と活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●意見なし</li> </ul>



#### 4. 人権文化の高揚と世界で活躍するグローバルな人材づくり

##### ①人権教育の推進

- 個々の人権意識が高めるのも大切だが、それ以上にみんなで取り組んでいく意識、集団の力が大事。上から5番目の○に「集団づくり」の視点を入れる。(例ー「豊かな出会いや学びを通して、～略～努力できる子どもの育成とともに豊かな集団づくりに努める」)
- 上から6番目の人権教育は重要。「人権デー」「なかま集会」のところに「いじめをなくす」という文言を入れる。

##### ②自己表現力の向上

- 「自己表現力」という言葉をわかりやすく。「社会に貢献する自己表現力の向上」はどうか？
- 「自分だけが」ではなくて、相手の事を尊重しつつ、自分のことを表現する力を育成するという視点を入れる。
- 自己肯定感、自尊感情、自分を伝えることが大切。

##### ③国際交流の推進

- 意見なし
- グローバルを一つの柱とするなら「国際性豊かな町である」ことを特色としてだしていく。

教育大綱 関係施策一覧

柱	1. 自分の力で未来を拓いていく力を持った人づくり
項目	①就学前教育の充実
施策	<p><b>【家庭教育の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スムーズな就園につながる「未就園親子登園」の実施</li> <li>○0歳児保護者に母子愛着の重要性を伝え、子育て方法の一端を経験する半日保育体験の実施</li> <li>○家庭教育力向上のための「園だより」「クラスだより」の配布や生活習慣をつけるための降園前の「個別懇談会」の実施</li> <li>○管理栄養士の指導による保護者が取り組む「お弁当教室」「食に関する栄養指導・衛生指導」の実施</li> </ul> <p><b>【幼保の連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園と保育所が一体となって、幼児教育の一元化をはかる幼保連携合同保育研修会の実施</li> <li>○小1プロブレムを解消するための保幼小連携による出前授業・出前保育の実施や園児の学校訪問・給食試食会の実施</li> <li>○延長保育や長時間預かり保育等、保護者の幅広いニーズに応えるための保育・教育の方向性について考える「幼稚園、保育所のあり方検討プロジェクト会議」の実施</li> </ul> <p><b>【豊かな心と考える力を育てる取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○乳児保育の中で、子どもと保育士との愛着関係や安心して生活できる保育環境を作るための担当制保育の実施</li> <li>○幼児の豊かな心を養い、思考力の発達を促すことを目的とした保護者や地域の人材による「絵本の読み聞かせ」「親子絵本貸出」「お話し会」などの読書教育</li> <li>○「戸外遊び」や「体験活動」、「野菜栽培」等、幼児が達成感や充実感を感じ、小学校での学習意欲の育成につながる「主体性のある遊び」を題材とした園内研修会の実施</li> <li>○日本の伝統文化を学ぶ「お茶席」「餅つき」「干し柿作り」の実施</li> <li>○人とかかわる力を育て、あこがれや思いやり、いたわりの心を育てるための「わくわくタイム」「おはようタイム」「園外保育交流」「ラ</li> </ul>

	<p>ンチタイム交流」等の異年齢交流の実施</p> <p>○農業体験等を通して自然を学ぶ「田植え・稲刈り」「苺摘み」や「さつまいも栽培」や「焼き芋パーティー」等、長寿会との多世代交流の実施</p> <p><b>【体力の向上にむけた取組み】</b></p> <p>○幼児期に運動意欲を向上させ、小学校での体力向上プランにつながる「朝のリズム体操」「キッズサッカー」「マラソン」「なわとび」や自ら挑戦意欲を持って取り組む「固定遊具」を活用した「チャレンジタイム」等による体力向上事業</p>
<p>項 目</p>	<p><b>②義務教育の充実</b></p>
<p>施 策</p>	<p><b>【課題……中1ギャップ解消】</b></p> <p>○中1ギャップを生まないための小中連携「出前授業」や「クラブ体験・授業体験(オープンスクール)」の実施</p> <p>○小・中学校のスムーズな接続のための教職員の小中連携合同研修会の実施</p> <p><b>【課題……授業規律・生活ルールの確立と家庭への啓発】</b></p> <p>○9年間を見通した学習規律を高めるための「授業を受ける10のきまり」の平準化や保護者と共に進める児童生徒の生活規律のルール作りのための「家庭学習のしおり」の配布</p> <p>○保護者が主体的に学校との連携を図ることを目的とした家庭への啓発活動のための「校長だより」「学年通信」「クラスだより」の配布</p> <p><b>【課題……読書習慣の確立】</b></p> <p>○図書館で配布している読書履歴を記録する「どくしょてちょう」や児童書リスト・ブックガイドを活用して、思考力や想像力、読解力を高め、読書の習慣をつけるための読書タイムの実施</p> <p>○図書室を有効的に活用するための保護者や地域の方々による「図書ボランティア」の実施</p> <p><b>【課題……体力向上】</b></p> <p>○各学校での体力テスト結果から、「外遊びチャレンジ」など様々な</p>

	<p>運動体験を通して苦手種目を克服し、運動への意欲を育みながら体力向上を目指す「天理っ子体力向上プラン」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学校の体力向上に関する効果的な取組を天理市全体に広めるための「天理市体力向上委員会」（体育主任者会）の設置</li> <li>○「スポーツの町天理」として、天理大学陸上部員による模範演技を体験しながら、市内小学6年生が親善と体力向上を目指す「親善体育大会」の実施</li> <li>○地域と学校の協働で、子どもたちが伸びやかに運動でき、児童生徒の体力向上、地域連携を図るための校庭の芝生化の推進</li> </ul> <p><b>【課題……体験活動の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市内小学4年生が集い、音楽性を培う「天理市小学校音楽会」の実施</li> <li>○「校区はにわ祭り」や「ちゃんちゃん祭り」等、地域行事への参加による地域の中の学校づくりの推進</li> <li>○各校区で提供される食材を用いた地産地消における食育の実施</li> <li>○「音楽の町天理」として、市内中学校・高校が一堂に会し、中高の連携を図ると共に音楽性を培う「ふれあいコンサート」の実施</li> <li>○情操を高め、日本の伝統文化を学ぶ「本物の舞台芸術体験事業」の実施</li> <li>○「古墳の町天理」として、授業で体感できない現地学習を基本に、歴史体験だけでなく子供たちの想像性、行動性、達成感を与える催しとして、古墳や遺跡の謎解きをしながら散策する「天理っ子遺跡探検隊」の開催</li> </ul> <p><b>【課題……自己表現力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「話す・聞く」能力を高め、自己表現力を高めるディベート大会の実施</li> <li>○「生徒会活動」や「学校行事」等を通じて行う、社会に貢献するための自己表現力の育成</li> <li>○広い視野をもち、自己表現力を高めるためのスカイプによる「ちきゅうの教科書」授業の実施</li> </ul> <p><b>【課題……自己肯定感の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己肯定感や自尊感情を高めるための「社会活動」「ボランティア活動」の推進</li> </ul>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>(方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の「自己肯定感」「自尊感情」を高めるための市内全校による研究課題の共通設定と授業研修会の実施</li> <li>○各学校の「自己肯定感」「自尊感情」を高める活動に関する効果的な取組を天理市全体に広めるための「小中学校交流会」の実施</li> </ul> <p><b>【課題……いじめ未然防止・対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめを見逃さず、いじめに対して組織的に取り組むための各学校における「個人別生活カード」の活用法の徹底</li> <li>○いじめや不登校を生まないための「KJ法」や「ロールプレイング法」を用いた「考え議論する」道徳教育の推進</li> <li>○いじめや不登校の未然防止のための「日記」の活用や「二者懇談」等、教育相談体制の充実と「学級会活動」「生徒集会」等による学校全体の雰囲気作りによる未然防止活動の推進</li> <li>○いじめ・不登校を未然に防止し、いじめの早期発見・早期対応を行うための天理市独自のいじめアンケートの実施とアンケート結果を活用した学校全体の未然防止の雰囲気作りの推進</li> <li>○いじめ等の問題行動について、専門的な見地からアドバイスをする「いじめ・問題行動等対策委員会」の設置</li> </ul> <p><b>【課題……不登校防止・対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カウンセリングマインドの習得や不登校（傾向）に対応する校内教育相談体制づくりの研修をおこなう不登校等支援委員会研修</li> <li>○不登校状態の児童生徒が学校復帰をめざし通室する教育総合センターの適応指導教室(小学生)と学科指導教室(中学生)の開設</li> <li>○悩みを抱える子ども、保護者、教員に対し、問題の解決や悩みの軽減を図るための教育総合センターでの来所相談、電話相談の実施と学校を通じた相談事業についての啓発活動の推進</li> <li>○不登校・ひきこもり傾向の児童生徒の社会復帰、学校生活への意欲向上を図るため、生徒宅や必要とする学校に臨床心理を学ぶ大学生・大学院生を派遣する教育総合センターの「ゆうフレンド派遣事業」の実施</li> <li>○不登校・ひきこもり児童生徒の保護者が主体となった教育総合センターでお互いに交流する不登校親の会「いなほ」や研修に取り組む「不登校を考える集い」の実施</li> <li>○不登校児童生徒の早期発見・早期対応のための欠席状況調査や学校</li> </ul>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>訪問会、ケース検討会の実施、また学校の不登校支援体制づくりのための情報交流を行う不登校等支援委員会の開催 (方向性)</p> <p>○不登校児童生徒を生まないためのスクールカウンセラー及びSSW(スクールソーシャルワーカー)による教育支援の拡大</p> <p><b>【課題……低学力・学習意欲】</b> (方向性)</p> <p>○言語活動の充実を図り、「読んで書く」「聞いて書く」「話すために書く」力を育むための国語科の研修授業の市内全小学校での実施</p> <p>○各学校の言語活動に関する効果的な指導法を天理市全体に広めるための「天理市小中学校国語教育研究会」の設置</p> <p>○児童生徒から学ぶ楽しさややる気を引き出し、学習の動機付けとなることが期待される放課後子ども教室や土曜学習の実施</p> <p>○児童生徒が分かりやすい授業を創造するためのICT環境の整備とタブレット導入</p> <p>○学習支援員の配置によるきめ細やかな教育活動</p>
<p>項 目</p>	<p><b>③特別支援教育の充実</b></p>
<p>施 策</p>	<p><b>【障害をもった子どもに対する取組み】</b></p> <p>○子どもが、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境のもと、自己を十分に発揮しながら活動できるように、健全な心身の発達を図り、養護と教育が一体となって豊かな人間性を育む保育の実施</p> <p>○市内の幼稚園及び小中学校において、一人一人のニーズに合った教育支援を行うための巡回教育相談の実施と早期発見・早期対応に向けて発達検査実施を含んだ教育総合センターの専門指導員による教育相談の推進</p> <p>○障害をもつ子どもが社会自立するため、一人一人の個別の教育支援計画とそれを基にした指導計画を作成による教育内容の充実と支援の継続</p> <p>○児童生徒の社会適応能力の向上を図るための交流遠足や宿泊学習の実施</p> <p>○通級指導希望の発達障害をもつ児童のための「LD等通級指導教室(ステップルーム)」の開設</p>

	<p><b>【支援体制の充実、理解教育】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「相談支援事業」「心理相談員による巡回相談事業」「療育教室杉の子学級運営事業」により、0歳からの一人一人の発達に応じた保育の実施</li> <li>○特別な配慮を要する幼児に対して、適切な支援の在り方を研修する特別支援教育推進事業の実施</li> <li>○特別な支援が必要な幼児が、スムーズに小学校へ接続するために、入学前に子どもの様子や支援について幼小が情報を交換する「幼小連絡会」の実施</li> <li>○小中が連携してスムーズな接続を計るための「校区別特別支援学級担任者会」の実施</li> <li>○特別支援教育に係る親や教職員の悩みに応える、特別支援教育相談の推進</li> <li>○「車椅子体験」や「盲導犬を招いての講演会」等、障害についての理解や認識を深める障害を理解するための教育の実施（方向性）</li> <li>○特別な支援が必要な幼児・児童生徒のための「保育サポート」「特別支援教育支援員」「スクールサポート」の拡充</li> </ul>
<p style="text-align: center;">項 目</p>	<p><b>④青少年の健全育成</b></p>
<p style="text-align: center;">施 策</p>	<p><b>【健全育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報化社会の進展による急激な環境の変化にも柔軟に対応し、豊かな人間性を育むための「自然体験」や「児童生徒会活動」、「社会体験（ボランティア活動）」の推進</li> <li>○職場体験学習や卒業生を招いての進路学習「ようこそ先輩」の実施などのキャリア教育による「確かな勤労観・職業観」の育成</li> <li>○義務教育卒業後の学校復帰や就労など悩みを抱える子ども・若者の社会復帰の意欲を高める教育総合センターの総合相談窓口「夢てんり」の開設</li> <li>○悩みを抱える子ども・若者の課題終結のための行政関係各課や関係組織団体の連携強化を図るための教育総合センターの「子ども・若者支援てんりネットワーク」の設置</li> </ul> <p><b>【問題行動の未然防止】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○不審者の出現を抑制し、児童生徒の登下校等の安全性を高めるた</li> </ul>

	<p>め、青色パトロールによる巡回やメール配信等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○登下校及び地域での児童生徒の安全の確保を図るため、市が委嘱する少年指導員による各小学校区での声かけ・見守り活動の実施</li> <li>○コンビニ、書店の成人向け図書類の陳列やカラオケ店について、県条例に照らし営業しているかを調査する県や警察との合同立入調査・指導の実施</li> <li>○外部講師を招いての「薬物乱用防止教室」の実施</li> <li>○いじめやネット被害者を生まないためのインターネット・スマホ「啓発講習会」の実施 (方向性)</li> <li>○地域の協力による関係機関と連携した農作業による児童生徒の居場所づくりの実施</li> </ul>
<p>項 目</p>	<p>⑤「学び」の環境整備</p>
<p>施 策</p>	<p><b>【ハード面】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育施設の定期的な安全点検と危険箇所の修繕</li> <li>○ファシリティマネジメントの手法による学校施設の最適化 (方向性)</li> <li>○学校（園）施設の学習環境の改善を図るため、空調機器等の整備</li> </ul> <p><b>【ソフト面】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○防犯意識の向上や交通事故防止のための、実践的な防犯教室・交通安全教室の開催</li> <li>○通学(園)路の安全性の確保のためのプロジェクト会議の開催</li> <li>○子どもの読書意識を高め、読書履歴を記録する「どくしょてちょう」や児童書リスト・ブックガイドを市立図書館で作成して全小学校へ配布 (方向性)</li> <li>○過疎化対策として、少人数制の魅力を生かし、英語教育やICT教育に特色ある教育環境を整えた福住中学校の特色ある学校づくりの推進</li> </ul>



教育大綱 関係施策一覧

柱	2. 子育て環境の整備とコミュニティづくり
項目	①地域の絆や交流の拠点づくり
施策	<p>(経過)</p> <p>核家族化の中、親だけに子育ての負担と責任がのしかかる現在、その孤独感、不安感などから派生する子育て問題も少なくない。そこで、天理市では子育て仲間を作るための活動として数多く子育て教室や子育て支援事業を実施し、「一人ぼっちの子育てをさせない」を合言葉に、子育てサークル支援に取り組んできた。子育て仲間や親子教室のグループから始まったサークル活動は、母親たちが出会う初めての仲間とのグループ作りのきっかけを提供してきている。</p> <p><b>【子育ての仲間づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保健センター及び子育て支援ホールの一体化や子育て世代包括センター等の妊娠期から子育て期にわたるまでの支援ができる環境整備。</li> <li>○子育てサークル活動の取組を交流し合い情報交換の場として、子育てネットワークづくりを実施。</li> <li>○子育てサークル活動の充実を図るための貸館事業を実施。</li> <li>○地域子育て支援拠点事業におけるサロン活動で、行きたい時に遊びに行ける場所を用意し、仲間と共に語り合い、相談し合い、新しい友達と交流できる場づくりを実施。そして子育て世代のみならず、高齢者や学生など多世代が交流できる場やつながりが持てる場を設置。</li> <li>○一人ぼっちで、孤立化した子育てにならないよう、近所の公民館等に遊びに出かける機会を提供する出前保育の実施。</li> <li>○生後2か月から5か月までの赤ちゃんとその母親たちが集まって、思春期から花開く0歳時期の育児をめざし、子育て親子の絆づくりプログラム“赤ちゃんが来た”、BPプログラムの実施。</li> <li>○「完璧な親なんていない」、1歳から5歳までの子どもを持つ母親たちのトークディスカッションにより、子育ての方法を学んでいくNP(ノーバディーズ プログラム)プログラムの実施。</li> <li>○子育ての先輩として、子育て中の母親や家族の応援をしたいと思う</li> </ul>

	<p>人たちに保育サポーター養成講座を実施し、各子育て教室や出前保育、幼稚園の預かり保育、子育てサポーターなど、様々な事業において子育ての協力者として登録し活動を実施。</p> <p><b>【家族で行う子育て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○父親や家族の参加が可能になる、土曜子育てサロンの実施。</li> <li>○子育て家族全員で参加でき、生の音楽に触れ親しむことができる、親子で楽しむ音楽会を実施。</li> </ul> <p><b>【地域との交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒や地域の人々に教育環境を提供しながら、地域の中の居場所作りとしての図書館・多目的室等学校施設開放の推進</li> <li>○添上高校との交流による「幼稚園実習」や「預かり保育ボランティア」の実施</li> <li>○添上高校との連携による体力向上支援事業</li> <li>○授業や園活動の支援を行うための天理大学等の大学生によるASSIST事業の実施</li> <li>○地域文化を通しての多世代交流の実施（虫送り体験会、黒米づくり体験）</li> <li>○地域の人を講師とした「ふれあい体験教室」の実施</li> <li>○通学路の児童見守り活動や朝のあいさつ運動による子育て支援</li> <li>○移動図書館による地域へのサービス提供</li> <li>○市立公民館への図書の貸出</li> <li>○地域で活動するおはなしの語り手を養成するための講座の開催</li> </ul>
<p>項 目</p>	<p><b>②子育て支援の推進</b></p>
<p>施 策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出生届出時に絵本を贈り、絵本を通じて親子の絆を深めることを応援する、ブックスタート事業の実施</li> <li>○保護者の多様なニーズに応えるための幼稚園における長時間保育の拡大実施</li> <li>○地域の遊びの場として、親子の居場所づくりとしての園庭開放</li> <li>○年間を通じて保護者が就労等により保育が必要な小学生に対して、適切な遊び及び生活の場を与えて、子どもたちの健全育成を図るための学童保育の充実。</li> <li>○小学校の余裕教室等を有効活用し、学童保育所を希望する全ての小学生が利用できるための、よりよい施設及び環境の整備を実施。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>○安全で安心して児童を預け、子どもたちが多様な体験活動や学習機会をもつことができる放課後子ども教室の開設</li><li>○公民館が子どもたちの身近な場所として、生きる力を養う文化講座を開催すると共に、学校の宿題や復習などの補充学習を支援する土曜学習を実施</li><li>○市立図書館にて、子どもの読書週間の素地を育成するための読み聞かせやおはなし会等の開催</li><li>○天理市読み聞かせ応援券(児童用絵本購入利用券)による市立図書館推薦の子育て支援関連図書の提供</li></ul>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育大綱 関係施策一覧

柱	<b>3. だれでも、どこでも学び合える環境づくり</b>
項目	<b>①生涯学習の充実</b>
施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの利用者だけではなく、新しい方が来ていただけるような多世代交流型の各種講座を開設</li> <li>○放課後等を利用して地域の方からむかし遊びやみそ作りを教わる多世代交流の実施</li> <li>○生涯学習の拠点として、高齢者学級や女性学級において日々の暮らしや仕事の中で必要とする知識や情報の提供</li> </ul>
項目	<b>②スポーツ・レクリエーションの充実</b>
施策	<p><b>【健康・体力づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各世代ごと、また福祉部門と連携し健康に力点を置いた介護やけが予防のためのスポーツ教室をはじめ、他自治体や団体と連携したスポーツイベントの開催など、市民の健康・体力づくりのための教室の開催を充実させる。</li> </ul> <p><b>【地域の絆づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○組織や年齢等が異なる人たちによるスポーツを通じたコミュニティとしての総合型地域スポーツクラブを育成するため、その推進役となる人材の発掘や、市民自らが組織を立ち上げるための助言、関係者の紹介などのサポートを行う。</li> <li>○スポーツ・レクリエーション施設設備の充実や安全性の向上のほか、インターネット予約の導入など利用の利便性を図るとともに、定住自立圏域町村のスポーツ・レクリエーション施設の相互利用を促進する。</li> <li>○するスポーツだけにとどまらず、見る、支援・応援することもスポーツ活動として捉え、それぞれがスポーツに関わり、楽しさや喜びを共有するスポーツ文化の醸成のため、スポーツに関する情報を積極的に発信し、地域、団体とのネットワークの構築を推進する。</li> </ul>
項目	<b>③環境教育の充実</b>
施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○出前授業や自然環境を利用した体験学習などを開催し、子どもたち</li> </ul>

	<p>への環境教育・環境学習の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境に関する講演会や環境フェアなどを開催し、市民等に向けた環境学習の充実を図る。</li> <li>○リバーウォッチング事業</li> <li>○環境クリーンセンターや浄水場の見学を通じた環境教育の実践</li> <li>○5年生宿泊学習などを通じた森林体験教育の推進</li> <li>○親子でともに学校（園）の美化に取り組む「ピカピカデー」や「親子清掃活動」、「親子奉仕作業(草刈りや花植え)」の実施</li> <li>○生徒会を中心に行う、車椅子やワクチンを送るためのプルトップ・キャップの収集活動や「もったいない」という心を育むアルミ缶・牛乳パックの収集を行う「リサイクル運動」の実施</li> </ul>
項 目	<b>④市民文化活動の振興</b>
施 策	<p><b>【地域交流の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○虫送り体験会、黒米づくり体験など、地域文化を通しての多世代交流の実施。</li> <li>○市内音楽団体と協力し、駅前広場の活用及び運営方法の方向性を考え、この場所から文化活動の発信を行うことにより、音楽文化の醸成及び人々がにぎわう街づくりを行う。</li> <li>○文化講座を開催し、歴史等のさまざまな文化に触れる機会をとおして、市内、市外の方々との交流活動の支援を行う。</li> <li>○キッズセミナーやファミリーコンサート、映画会など、親子で楽しめるさまざまな事業を開催することにより、親子のふれあいを深め、心の豊かさを養う。</li> </ul> <p><b>【芸術文化の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市内音楽団体への支援や育成を行い、コンサート等を開催することによって、音楽文化の向上を目指す。</li> <li>○市展等を開催することにより、個々の芸術の向上及び出展する機会を設け、芸術に関する関心を高めてもらう。また、文化施設等で文化活動をしている団体に発表の場を提供することにより、芸術文化の向上と人材の育成を図る。</li> </ul>
項 目	<b>⑤豊かな文化遺産に触れる学習の推進</b>
施 策	○郷土の文化財や歴史学習のため、小中生を対象に校区の古墳を探る

	<p>「天理っ子遺跡探検隊」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他市町との連携で、唐古・鍵遺跡、纏向遺跡、オオヤマト古墳群を巡り、ヤマト王権誕生のストーリーを紹介する「磯城・山の辺の古墳と遺跡を訪ねる考古学講座」を開催</li> <li>○文化財の周知を高めるため、現地見学のサポートとして「天理市の文化財」や「天理の古墳 100」を刊行</li> <li>○文化財の貴重性を伝え保護保存への理解を促すため、企画展示の「夏の文化財展」及び発掘速報展示の「冬の文化財展」（1 か月間）と公開講座を開催</li> <li>○普段は直接観察ができない三角縁神獣鏡（レプリカ）を、ケース出しで体験できる学習会「黒塚古墳特別講座」を開催</li> </ul>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育大綱 関係施策一覧

柱	<b>4. 人権文化の高揚と世界で活躍するグローバルな人材づくり</b>
項目	<b>①人権教育の推進</b>
施策	<p><b>【義務教育】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○お互いに認め合い、励まし合い、支え合える集団づくりのための「宿泊学習」や「社会活動」等の体験活動や学級活動の推進</li> <li>○人の痛みがわかり、いじめを許さない心を育てる道徳教育の推進</li> <li>○「人権デー」「なかま集会」等、人権集会による児童生徒がいじめをなくすための人権教育の推進</li> <li>○障害を持った人々や福祉施設で働く人々との豊かな出会いや学びを通して、自らを見つめ、問題解決・自己実現に努力できる子どもの育成</li> <li>○障害者理解のための（アイマスク、車イス）体験</li> <li>○広島・沖縄への修学旅行における平和祈念集会での平和宣言の実施</li> <li>○4 中学校区ごとの保育園・幼稚園・小学校・中学校の連携で行う人権教育を中心とした研究授業研修会の実施</li> </ul> <p><b>【社会教育】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎月 11 日「人権を確かめあう日」の街頭啓発活動</li> <li>○毎月、啓発チラシ（アニマ）の発行・配付</li> </ul>
項目	<b>②国際交流の推進</b>
施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○韓国・ブラジル・チリの 3 つの都市との書画等による姉妹都市交換作品展の開催</li> <li>○天理教語学院生との交流による「地球号 OLE 事業」を通じた国際理解教育の推進</li> </ul> <p style="text-align: center;">（今後の方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○天理大学の留学生や天理で暮らす海外の人々による外国語教育を中心とした異文化交流事業の実施</li> </ul>